

開催日時：平成30年5月31日（木）13：30～15：00

開催場所：ルポールみずほ 3階 ゆりの間

出席者：三浦亮評議員（議長）、木村評議員、佐々木評議員、佐藤評議員、館岡評議員、
小林評議員、松淵評議員、
中田支部長、桜田部長、三浦部長、佐藤グループ長、安田グループ長、間杉グループ長、
沼倉主任、三澤主任、菅野主任（記）

議事録署名人：木村評議員（事業主代表） 小林評議員（被保険者代表）

委任状受理者：松浦評議員 三浦潔評議員

■ 議事事項

1. 平成29年度事業報告について
2. 秋田支部の医療費分析等データ分析について
3. その他

■ 質疑応答、意見交換等

1. 平成29年度事業報告について

【学識経験者】

ジェネリック医薬品使用促進に向けた医療機関・保険調剤薬局への通知だが、どれくらいの割合の医療機関に通知しているのか。

【事務局】

秋田県内、保険請求のある全ての医療機関・調剤薬局に通知している。

【被保険者代表】

秋田支部の事業運営における主な数値指標は、評価できる内容である。これらの指標はインセンティブに影響してくるのか。

【事務局】

「ジェネリック医薬品の使用促進」、「健診の実施」、「事業者健診データの取得」、「保健指導の実施」についてはインセンティブに影響する。それ以外は直接インセンティブに影響しないが、医療費適正化等の観点ではかかわってくる。

【事業主代表】

レセプト点検効果額だが、医療費適正化という意味では、診療内容査定効果額が少ないほうが医療機関が適正に請求しているので「良い」と判断できるのではないかと。

【事務局】

協会けんぽでは、支払基金での審査の後の内容点検となる。医療機関から適正なレセプト請求があれば、査定できるものはなくなる。そういった意味では効果額が少ないほうが「良い」と言えるが、実際

は間違いもあり、保険ルールに則って請求されているか、しっかりチェックし査定することにより、是正することが必要とされる。最終的には今後の医療機関の適正な保険請求に結びついてくる。

【事業主代表】

健康づくりに向けた協定・覚書を現在7ヶ所の自治体と締結しているが、秋田県内は25市町村あり、他にも関心を持っている市町村があると思うので、マスコミ等を活用して更なる協定締結の拡大につなげてはどうか。

【事務局】

参考にしていきたい。

【被保険者代表】

健康経営についてだが、ある飲料メーカーが、健康経営をしている事業所を訪問して営業をしている。

内容は、ウォーキングのアプリを作り、歩数によってポイントを貯めて自動販売機から商品がもらえるサービスなどをして、健康づくりを後押ししている。このような健康づくりを後押しする企業に対して、協会けんぽとしてどう対応を考えているのか。

【事務局】

健康経営を実践している事業所では、自販機の飲み物を加糖から無糖に変更したり、健康にプラスになることを取り組んでいるところもある。自社にとって社員の健康づくりに繋がるのであれば取り入れるのもいいと思う。

【学識経験者】

健康経営の認定証は、事業所へ発行しているのか。人手不足の中、学生などは企業の福利厚生に注目している。働き方改革などでも、社員の健康づくりは大変注目されている。

【事務局】

宣言事業所に対し認定証を発行している。また、健康経営優良法人などは、企業のイメージアップを図ることができ、事業所にとっては非常にメリットがある。

2. 秋田支部の医療費等データ分析について

【被保険者代表】

秋田は全国と比較して若い世代の医療費が高いが、乳幼児・若年者のジェネリックの使用割合が低いのが一因としてあるのか。そうであれば、その親の世代にアピールしていかなくてはいけないのではないかと。一方、岩手は乳幼児・若年者のジェネリックの使用割合が高いが、どこに要因があるのか。

【事務局】

乳幼児・若年者は、呼吸器系の疾患の割合が高いがそのジェネリック使用割合が岩手より低い。例えば、秋田は乳幼児・若年者の去痰剤のジェネリックの使用割合が低い。医師の使用に対する見解もあるが、他県での使用状況などを医療機関等に示していきたい。

【被保険者代表】

医療費の助成なども影響しているのか。

【事務局】

影響はあると考えられる。やはり子供は急病など多いので、医療費が助成されればより受診しやすくなり、またジェネリックを使用しない状況もあるのではないかと。

【被保険者代表】

「横手地区」は、ジェネリックの使用割合が低い、一人当たりの医療費も低い。要因はあるのか。

【事務局】

「横手地区」は、他市町村と比べて、60歳以上が少なく若い世代の割合が多いことが理由の一つとして考えられる。

【学識経験者】

各県の医療費の地域差は大きくあり、秋田は若い世代の医療費が高い特徴がある。受診率が低くて重症化してから受診するという事なのか。

【事務局】

その点については不明。ただ医療費が高い県は、受診しやすい環境、例えば病院が近くに多く存在する環境があるといった傾向はある。今後、分析を進めていきたい。

【被保険者代表】

秋田支部の一人当たり医療費だが、歯科は全国と比較してどれくらいの位置づけなのか。

【事務局】

全国平均並みとなっている。

【学識経験者】

ベット数が多いと医療費が高い傾向があるそうだが、その点は分析しているか。

【事務局】

今後、分析を進めていきたい。

【事業主代表】

秋田県は10年後に健康寿命日本一を掲げているが、このデータを見ると非常に厳しい状態だと認識される。

【学識経験者】

地図を使ってデータを表現し、「見える化」をはかることは非常にインパクトが高い。健康寿命の延伸に向けてこのような分析を外部に発信してはどうか。

【事務局】

今後も健診結果のレーダーチャート・GIS を使った地図化など、データ分析した内容をわかりやすく伝えていきたい。

【学識経験者】

医療提供側の立場からいうと、現在、日本ではほとんど抗生物質の開発はされていない。メーカーにしても高い開発経費をかけて収益がとれなければ新規の開発ができない。これから人類にとって既存の抗生物質がきかない病気がでてくることも考えられる。そういう事態になって抗生物質を海外から買わなくてはならなくなったら大変である。経済的な観点からだけでなく、別の見方もあるということを知っておいていただきたい。

■次回評議会の開催 7月開催予定